

研究室彙報

以前から、すでに或る程度に文明化されてゐたものと推測される。彼等の大部分は交易を主とした商人で、近國はもとより、西方のバビロン・エジプト方面、北方の中央アジア方面とも交易を行つてゐたと言はれる。

本書の譯者は、最近南方共榮圏の文化に關する勝れた研究成果を矢つぎばやに發表して、斯學界に於ける獨自の地歩を固めつつある。本書も亦その學績の一環として、學的にも高く評價されてよいであらう。それと同時に、啓蒙書・教養書として持つ意義も亦極めて大きい。譯文は平易を旨とし、原著書の意趣を傳へることに努力したと言ふ。挿入の寫眞は餘り鮮明だとは言ないが、しかし本書の理解を助けてゐるばかりでなく、却つて寫眞によつて讀書欲をそそられる所、その役目は充分に果してゐて呉れる。(晃文社刊、B6型、本文二九一頁、定價二圓七十錢)(舟)

○人文學第一研究室

◇國文學會

○新入會員歡迎會 十一月十日 於鑑屋

新入會員 石川渉、北畠弘、瀧本文隆、土室昂、福島國豐、日野貢、鷲山樹心以上七名

出席者 多屋、阪倉、清水、頼原教授を始め學生十四名

○例會 十二月十日 於十教室
妙玄寺義門について 多屋教授

○樋口功教授歡迎會 五月二十日於森永
専門部教授として新たに執任せられた樋口功氏を迎へて多屋、阪倉兩教授御出席の下に開催す

○輪讀會 四月より毎週土曜日十二時二十分より十三時まで

○講本 古板本「三部假名鈔」

多屋教授指導

○樋口功教授御逝去

御着任後僅か二箇月にして突然訃報に接し會員一同誠に哀悼の意に堪へず。

教授は五月三十日府立病院に入院せられ直ちに開腹手術を受けられたが經過よろしからず六月一日午後に至つて急逝せられた、同三日御葬儀には會員全部參列し學生代表(武田唯一君)弔辭を讀んだ。

○例會 六月二十四日 於第十一教室
第一回卒業生研究發表

良寛について 上宮賢了君

○例會 七月一日 於第十一教室
第二回卒業生研究發表

芭蕉に於ける風雅の誠 武田唯一君
枕草紙の美的情緒について

平塚孝英君
(谷彰一記)